

珠坊日英の草創であつたが、明治十八九年頃維持困難なるを以て破却した。

リュウカイ 立介 ↓トミヅヤリュウカイ 富津屋立介。

リュウガイ 立開 羽昨郡邑知院内羽昨正院に屬する部落。

リュウカクジ 隆郭寺 石川郡野々市に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年六月寺號の公稱を許された。

リュウガクセイ 留學生 加賀藩が藩費を以て留學生を派遣したことは、文久元年航海測算を研究する爲、江戸の軍艦操練所に送つたことを嚆矢とする。この後慶應元年、英佛學の素養ある者を横濱に遊學せしめた事があり、二年關澤孝三郎後明、岡田秀之助後一を英京倫敦に留學せしめ、三年淺津富之助後南を又英國に派した。次いで明治元年藩の軍艦奉行稻葉助五郎の、私に學生神戸清右衛門、不破興四郎・黒川誠一郎・馬島健吉四人を率ゐて歐洲に航したことがあり、二年四月には岡島喜太郎・佐野鼎・關澤孝三郎・吉井保次郎・佐堂卓爾が藩命によつて亦歐洲に向かうたが、喜太郎以下三人は事故あつて香港から歸國し、保次郎と卓爾とは所期の目的を達し、三年卓爾は外國人三人を教師に雇聘する約を結んで歸つた。和蘭一等軍醫ベイ・ア・スロイス、普魯西の鐵山學者イ・フオン・デル・デッケン、英吉利の醫學教師リッテル・ウオードがそれである。又二年政府は兵學寮を大坂に設け、生徒を諸藩に募つたが、岡田秀之助は聘せられてその教師となり、翌三年に及んだ。この際前田慶寧は兵學寮の教授その法を得たるを聞き、多く藩士の子弟を派して留學せしめた。

當時兵學寮の生徒總數三百十七人で、内金澤藩の者五十五人に及んだのは是が爲であつた。又三年十一月金澤に中學東校及び西校の創設せられるや、之と同時に學校掛は『西京等へ勤學規則』を制定した。それは生徒の學業稍成熟した上、東西兩京に遊學することを許し、滞在一年の後に至り、勤惰進退の成績を徴し、學費を補助することがあると定めたのであつたが、その後久しからず廢藩に會して、未だこの規則の實行を見ることなくして止んだ。是より先、二年五月嵯峨藩安は藩から露國留學を命ぜられたが、廢藩の後も尙かの地に留り、七年に至つて歸朝した。

リュウガババ 龍ヶ馬場 (一)北龍ヶ馬場―白山尾添口登路から登り、長坂、四ヶ塚を越える時は龍ヶ馬場一名北龍ヶ馬場に達する。その地高原をなし、標高二五〇〇米許、大汝岳の峻峰を眼前に望み得る。

(二)南龍ヶ馬場―白山御前岳から別山に向かふ間にある方數百米の高原を、龍ヶ馬場一名南龍ヶ馬場といひ、地勢西南に緩傾斜し、標高一八五〇米から二〇五〇米に及ぶ。越前名蹟考に、『龍ヶ馬場の王子とてあり。長瀨寺の行者共、山上行法の六所の王子のその一つなり。』と記する。

リュウガババ 龍ヶ馬場 能美郡今江に在る。山口記慶長五年八月八日の條に、『江口三郎左衛門、長九郎左衛門が備を大に打破ると聞て、小松丹羽長重人數を率ゐ、小松に進む。北淺井不破興右衛門等中路從龍ヶ馬場進みて江口と合力。』とある龍ヶ馬場は、越登賀三州志に今の往還今江村沼田の際であると記する。

リュウガババ 龍ヶ馬場 河北郡上

藤又・森(今山森)坂戸・原の領界に在つて、森の西一軒餘を距て、平坦の所僅かに六六〇平方米許の地で、今社地となつてゐる。もと堡主は村上右衛門と傳へるが、何人か明らかでない。天正十二年津藩の前田秀繼父子が、龍ヶ峠で佐々興左衛門と會戰數回に及んだと前田創業記等に見える。この龍ヶ峠城を前に森城ともいふが、淺加久敬の道程記に龍ヶ峠と森との城址を分けて書いたのは誤である。

リュウガンギモン 龍岩義門 石川郡曹洞宗大乘寺廿四代の住持。攝津全昌寺から進山した。延寶元年二月九日寂。

リュウグウイン 龍宮院 江沼郡山代に在つたといふ。爰紀開闢に、大聖寺藩御用殿の内に龍宮院と稱する所がその廢址で、古瓦を掘出すことがあると記する。

リュウケイ 流刑 (一)加賀藩―加賀藩に於ける流刑は越中五ヶ山に瀆すを最も重しとし、能登島之に次ぎ、能登半島の鹿島郡を最も輕しとした。能登島に在つては、野崎・日出島・二穴・佐波・須會・半浦・田尻久木・間・通・無關・向田・祖母浦・曲・南・八ヶ崎・緩目・長崎・別所・小浦・岡の諸村に亘り、半島にては上湯川・鶴浦・三室・太田・佐味・府中・後島・所口附近・天神川原・藤島・國分・細口・白馬の諸村を選ばれた。流刑者にして罪狀の重いものは續所に拘禁するが、輕い者は居村の逍遙を許した。食料は二人扶持又は一人扶持の外、薪代・植代を十村に與へて供給せしめた。小屋の大きき九尺二間、鍋・水桶各一、椀一具が與へられた。帶刀・近親の合力・通信等は許されるも許されぬもあつた。

(二)大聖寺藩―大聖寺藩では、江沼郡大日・

九谷を以てその流刑地に當てた。

リュウゲイン 立華院 加賀藩主第十二代前田齊廣の女次姫の法號。詳しくは立華院圖智微笑大姉。

リュウゲン 隆玄 ↓シンクウリュウゲン 心空隆立。

リュウケンジ 龍賢寺 河北郡白尾に在つて、眞宗東派に屬する。

リュウゲンジ 龍源寺 石川郡金石の上寺町に在つて、曹洞寺に屬する。寺號に、寛永九年雪庵の創立に係るとある。

リュウゲンジ 柳源寺 羽昨郡酒見に在つて、眞宗東派に屬する。

リュウコ 柳臺 ↓ウノリュウコ 宇野柳臺。

リュウコウイン 龍光院 富山藩祖前田利次の法號。詳しくは龍光院瑞巖良祥大居士。

リュウコウイン 隆興院 加賀藩祖前田利家の側室笠間氏の法號。詳しくは隆興院香林楚清大姉。

リュウコウジ 龍光寺 鹿島郡佐味に在つて、眞宗東派に屬する。

リュウコウシユウ 龍窠集 三冊。上田耕著。天保・嘉永年間に於いて著者の草した政治、經濟に關する論文を集めたもの。

リュウコクジ 龍國寺 金澤上小川町に在つて、祥雲山と號し、曹洞宗に屬する。慶安三年養傳之を公儀町に創め、萬治二年命により寺地を收められて廢寺となつたが、寛文十一年前寶圓寺虎白請うて今の地に重建した。當寺に猿人友禪の墓と稱するものがあるのは偽蹟であらう。↓ウウゼン 友禪。

リュウコクジ 龍谷寺 親元日記に、『寛正

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七

九〇七